

生連協だより vol.101

発行 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 会長校：東京都市大学 TEL：03-5707-0104（代表）

編集担当 杏林大学・明星大学・国際武道大学 印刷 株式会社 エムディーエス

関東地区学生生活連絡協議会新会長あいさつ ～新しい時代の多様な学生支援～



東京都市大学 学生部長
飯島 正徳

東 京都市大学で、この春より学生部長を務めております飯島正徳です。今年度は、本学が会長校をお引き受けすることになり、会長を務めさせていただくことになりました。会長就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

関東地区学生生活連絡協議会（以下、生連協）は、私立大学36校と1団体がアルバイト問題等を討議するため、1965年に「東京地区学生アルバイト対策協議会」として発足しました。現在では77大学が加盟し、学生支援の向上を目的として、各種事業の展開を行っています。歴史ある「夏期合同研修会」「講演会」、そして「通常総会」を通じた交流協議の場の提供等、会員校間のネットワークは、学生支援に大きな成果をもたらしました。また、定期刊行物である「生連協だより」も100号に達し、新たな出発ともいえるべき101号の発行となりました。これもひとえに皆様方の並々ならぬご尽力の賜物と感謝いたします。

昨今、大学をめぐる環境は大きく変化しつつあり、4年制大学への進学率は約50%となっています。大多数の大学には、日本社会の平均層における最後の学校教育の場としての役割を果たす義務が求められています。さらにインターネット等の普及で、社会の変革に対応した新たな学生支援も必要となっています。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、各大学とも本来とは異なる形で教育を行い、日々その対応に追われていることと思います。大学としては、入試、教育、学生生活、就職といった4つの柱どれもが100%の状態とは言えません。このようなコロナ禍で、生連協として学生支援向上のための取り組みを行っていることに、今年度の会長校として重い責任を感じております。大学という組織の中で学生支援がカバーしなければならない守備範囲はあまりにも広く、また時代の変化に対応しながら様変わりしてゆく中で、いかに早く変化の情報をキャッチできるか、今こそ

会員校間の連携や情報交換といったものが重要になります。そこが今年度の生連協の重要な役割の一つであると認識しています。今後も会員校皆様のより一層のご理解とご協力を賜りながら、東京都市大学学生支援センター一同、精一杯務めたいと思います。何分にも宜しくお願い申し上げます。

新しい時代の多様な学生支援

私の拙い記憶をたどると、学生の頃に在籍していた大学では、奨学金関連以外学生支援との関わりは多くありませんでした。ただし、その頃と比べて、現在の学生支援は扱う分野も多岐にわたり、内容も大きく変化しています。その発端となったのは、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」にあらためること、転換することを強く主張した、いわゆる通称「廣中レポート」（『大学における学生生活の充実方策について（報告）—学生の立場に立った大学づくりを目指して—』文部省高等教育局2000年）です。当時、調査研究会の座長で山口大学学長であった数学者の廣中平祐先生（1970年フィールズ賞受賞）によるもので、現在、各大学において学生支援および学生相談体制の整備・充実を図る際の参考となっています。その後、「廣中レポート」の理念をより実際の提言としてまとめた「苦米地レポート」（『大学における学生相談体制の充実方策について—総合的な学生支援と専門的な学生相談—の「連携・協働」—』日本学生支援機構2007年）では、「3階層モデルによる総合的な学生支援体制」を提示し、学生支援に大きな変化をもたらしました。また、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（2018年文部科学省中央審議会（答申））では、2040年に必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿について言及し、教育研究体制における多様性と柔軟性の確保が求められ、学修者本位の教育への転換の必要性を謳っています。

今後は新しい時代の学生支援として、さまざまな学生に対応するための柔軟で多様な学生支援が求められることになるでしょう。

最後に、少し気が早いかもしれませんが、コロナの後に来るだろう新しい時代の学生支援の姿も見据えつつ、今年度は、より一層の連携強化をお願いして、生連協の皆様と力を合わせていければと思います。この一年が次世代高等教育への礎となりますことを願い、会長挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第55回

通常総会開催

2020. 6. 12 fri

令和2年度 三役校決定!



会長校

東京都市大学

副会長校

亜細亜大学・二松学舎大学

令和2年度 第55回通常総会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への感染防止の観点から会員校皆様の健康と安全を最優先に考え、事前に総会資料を送付し、議案を確認いただいた上で運営を三役校に委任いただき、書面議決書方式といたしました。

書面議決書は、総会開催日の6月12日(金)までに66校から提出があり、全議案について反対意見等はなく、議事は滞りなく進行し、無事終了いたしました。

なお、総会は、当初予定されていた東京都市大学・夢キャンパスから感染防止のため、オンライン会議に切り替えての開催と致しました。

令和2(2020)年度 関東地区学生生活連絡協議会 第55回 通常総会 議事録

開催日時:令和2(2020)年6月12日(金) 16時00分～17時00分

開催場所:新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防対策のため、東京都市大学夢キャンパスからZoomを使用してのオンライン開催に変更

会員総数:77校(議決権総数)

出席会員数:66校(書面議決書提出)

※規約第12条 第7項抜粋

総会は、会員の3分の2以上の出席(委任状を含む。)をもって成立し、その議決は、出席校の過半数をもって決する。ただし、議決権は1校1票とし、可否同数のときは議長の決するところによる。

出席者:会長校(二松学舎大学) 馬淵 裕之

勇 健一

副会長校(桜美林大学) 和田 満

石川 智仁

副会長校・次期会長(東京都市大学)

飯島 正徳

副会長校(東京都市大学) 住田 曉弘

河合 大

島田 則明

松永 俊幸

議案:第1号議案 令和元(2019)年度事業報告について

第2号議案 令和元(2019)年度決算報告について

第3号議案 令和2(2020)年度役員校並びに顧問の選出(案)について

第4号議案 令和2(2020)年度事業計画(案)について

第5号議案 令和2(2020)年度予算(案)について

1. 令和2(2020)年度 第55回 通常総会の開催

議事に先立ち、関東地区学生生活連絡協議会規約(以後、規約)第12条第6項の規定に従い、議長 に二松学舎大学教学事務部学生支援課 馬淵 裕之氏を選出した。併せて、書記に東京都市大学学生支援センター 島田 則明氏を選出し、総会を運営することとした。

総会の開催にあたり、書記の島田氏より規約第12条第7項の規定に従い、会員校の3分の2以上の出席(委任状、書面議決書66校分)があることが確認され、総会は成立するとの報告があった。

総会の議事となっている5つの議案について審議を行い、各々承認した。

議案	結果	賛成	反対	無効
第1号議案 令和元年度事業報告について	認	66票	0票	0票
第2号議案 令和元年度決算報告について ※会計監査報告	認	66票	0票	0票
第3号議案 令和2年度役員校並びに顧問の選出(案)について	認	66票	0票	0票
第4号議案 令和2年度事業計画(案)について	認	66票	0票	0票
第5号議案 令和2年度予算(案)について	認	66票	0票	0票

2. 令和2(2020)年度会長挨拶

先に審議、承認された第3号議案 令和2(2020)年度役員校並びに顧問に基づき、新会長に就任した東京都市大学 飯島 正徳氏から就任の挨拶があった。

3. 令和2(2020)年度会長校挨拶

閉会にあたり、新会長校に就任した東京都市大学学生支援部 住田 曉弘氏より挨拶があった。

以上をもって令和2(2020)年度 第55回 通常総会を閉会した。

2020年度の新たな取り組み紹介

杏林大学

新型コロナウイルス禍における杏林大学の学生支援策について

杏林大学ではコロナ禍における学生への経済的支援策として、以下3点を決定しました。

1. 家計急変学生に対し授業料の減免(20万円)
2. 希望者へWi-Fiルーター、タブレットの貸出(各300台)
3. 全学生へ1万円の支給

特に、3の全学生へ1万円の支給方法は二転三転した結果、「クオカード」を簡易書留で発送するという方法に決定しました。現金手渡しは管理の難しさ、現金振込では全学生の振込口座を確保するのに時間がかかるなどを鑑み却下し、出来る限り早く学生の手元に届けるため、クオカードを簡易書留で保護者に送付する方法に決定しました。クオカードの手配、送付用の封筒印刷発注、同封用の鑑文(学長名)の作成、郵便局へ簡易書留の相談と短期間

にバタバタしました。特に簡易書留の手続きで、当初は宛名タックシールにバーコードを印刷することを考えましたが、郵便局指定のバーコードの規定どおりにするための調整が困難で、簡易書留用「お問い合わせシール」を貼付することに変更し、郵便局へ「お問い合わせシール」5,500枚を依頼しました。準備完了の連絡を受け、引き取りに行きましたが、担当者の方から約10倍の60,000通分の「お問い合わせシール」をいただき、ビックリしてしまいました。他部署の協力を得て、何とか無事発送することができました。



国際武道大学

新型コロナウイルス対応振り返り

コロナ禍の中、各大学ともご苦労されていることと推察いたします。国際武道大学は、3月末から新学期のオリエンテーションを行う予定で準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により急遽年間スケジュールを変更し、4月20日から15週の授業をZOOMによるリモートでスタートさせました。そのため、ゴールデンウィーク期間中も通常授業とし、15週の授業時間を確保しました。リモートに不慣れな教員も急ピッチでのスキルアップを求められましたが、初めてのことでかなり手こずっている先生方もおられました。しかし、今では授業から会議までZOOMによるリモートがスタンダードなものとなりました。これに加え、数年前より新たな教学システム及びポータルサイトの導入を進めてきたことが、今回のリモート化には良い影響を与えたものと思っています。学生支援センターは、オリエンテーション時に毎年奨学金の説明会を開催し、その手続きの方法を指

導して参りましたがそれも叶わず、ポータルサイトを介しての説明方法を取らざるを得ない状況となりました。そのため奨学金申請書類の不備が目立ち、保護者様からの質問や相談に日夜対応する日々が続き、それをひとつずつ指導していく作業が現在も続いています。学友会活動(クラブ活動)も6月22日までは全面的に活動停止としていましたが、それ以降は段階的に緩和し、正常な活動に戻していく予定です。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、本学のおかれている地域的特性による市民からの心配する声など安全・安心に関する対応が迫られる毎日となっています。本学では、8月3日には密集、密接、密閉とならない利用方法を前提に制限を解除する予定としていますが、コロナの第2波、第3波が予想される中、当分の間、様々な課題を一つずつ対処していく毎日がわれわれに求められているところです。

明星大学

新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う対応

本学においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、主に以下の取り組みを実施いたしました。

- ・学内者専用ページにて日本学生支援機構奨学金説明会を動画配信
- ・学内奨学金申請を一部Web申請に切り替え
- ・学友会活動停止(3月末より継続中)→段階的に緩和予定
- ・学内者専用ページにて学友会団体紹介動画を募集、公開
- ・学割証発行、自転車バイク通学申請、保険申請等学生支援関連の申請をWeb申請に切り替え

これまでほとんどの申請受付を紙で実施していたのですが、このコロナ禍の影響でWeb申請に切り替えることができました。また、やむを得ず全ての業務を見直す必要があり、改めて業

務の本質を見つめなおす良い機会だったと捉えています。

今後の課題は、情報伝達方法です。こちらが伝えたいことと、学生の解釈に齟齬があり、クレームやトラブルに繋がりがねません。学生全員に共通の認識を持てもらうための“伝え方”を今一度検討し工夫する必要があると考えています。



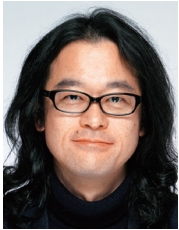
▲学生食堂



▲講義室

令和元年度関東学生生活連絡協議会の 会長校を終えて

～再び、〈根っこ〉にこだわる覚悟と自負～



二松学舎大学 学務局長
瀧田 浩

二松学舎大学が本協会の会長校を務めさせていただいた令和元年度は激動の1年になりました。新型コロナウイルスの感染が世界規模で拡大し、日本の大学においても対面授業をこれまでと同様に継続することができなくなり、オンライン授業が多くの大学で全学的に導入されました。これまでに例をみない大きな転換とそれにともなう過重な仕事とストレスを余儀なくされ、教職員ともに先の見えない状況下で模索する日々が続いています。会員校のみなさまの心身がともにご無事であることを祈るばかりです。

本学が会長校を務めた令和元年度を振り返ってみれば、会員校のみなさまのご協力のおかげで着実に成果を挙げてきたと思います。6月には通常総会と第1回講演会「学生の人生にかかわる～レジリエンスの視点から～」(講師は本学・奥野光氏)が二松学舎大学で開催され、新しい体制が発効しました。7月には、留学生担当者研修会が国土舘大学で開催され、9月には第2回講演会「大学マーケティング戦略に基づく、エンrollmentマネジメントとしての学生生活改善」(講師は本学・塩沢一平氏)と7つの分科会を含む夏期合同研修会が新潟県越後湯沢で2日間にわたり開催され、(私はやむをえず欠席したのですが)議論も活発だったと聞いています。11月には、第3回講演会「学生生活に潜む犯罪 具体的事例にみる大学生の実態について—学生・大学を守るために—」(講師は麹町警察署・松本健児氏)が二松学舎大学で開催され、警察の視点から見た学生について話をうかがったのち、私の2代前の会長である東洋大学の中原美恵氏にコーディネーターをお願いし、グループワークもおこないました。

このグループワークを見て、緊張感のある真剣な議論の様子に私は感銘を受けました。私は研究者として研究者同士が集まる場に出席はしますが、大学の枠を越えて職員の方々が意見を出し合う場に立ち会うのは初めてでした。これまでの経験を開き示し、知として共有されていく過程をつぶさに見て、大学における「教職協働」の基盤＝根っことなるのは、それぞれの職場やこのよう

な学校の枠を越えた交流の場で経験を知として蓄積していく職員の方々なのだろうと考えました。

1年前の『生連協だより』に新会長挨拶の執筆依頼を受け、私は「根っこ」という意味を基点としてできた「radical」という単語は「根本的な」という意味と「徹底的な」「過激な」という意味をもっていますが、本協議会は大学教育をradicalな部分で支えていると言えるでしょう。」と書きました。会長として1年間さまざまな行事に出席させていただいて、学生を生活面から支えようとする本協議会の活動がradicalで「根っこ」に関わるものだという確信はさらに強まりました。そう考えると、学生と教職員の距離が離れ、コミュニケーションが間接的になってしまった現在だからこそ、本協議会の役割は重要度を増していると思います。私たちは学生の根っこの部分に関わっていくための新しい方法を見いだしていくべきなのでしょう。

最後に、少し私自身の授業の話をして。オンラインの授業の中で、特に1年生に向けては、大学の研究の本質＝「根っこ」にこだわるため、研究の楽しさを強調しました。1年生必修授業の第1回目の冒頭では、NHKでアニメーション化され話題にもなった大童澄瞳のマンガ『映像研には手を出すな!』第1巻に出てくる、アニメーション作りに情熱を注ぐ高校生たちの次のセリフを紹介しました。

「我々はモラトリウムに守られているんですよ。失う物なんてないノーリスクですよ。」「私の考えた最強の世界。それを描くために私は絵を描いているので設定が命なんです」。

好きなものに深く楽しくのめり込んで、そのプロセスと到達点を他者に示すことに全力で取り組むこと。これを体感させる授業づくりをしようと思いました。「集中して研究対象と格闘しているうちに、どんどん時間が経ってしまい、新型コロナウイルスのことも忘れてしまっていた」という学生のつぶやきがたくさん引きだせればと考えていました。学問の「根っこ」＝本質に触れることさえできれば、授業形態はあまり重要ではないと思います。

1年間たいへんお世話になりました。短い期間ではありましたが、貴重な経験をたくさん得ることができました。心から感謝いたします。次期会長校の東京都市大学さまのリーダーシップのもと、本協議会の活動がさらに意義あるものになりますようお願いしております。今後ともよろしくお願いいたします。